

タイトル:平成 25(2013)年度 研究セミナー

日程:平成 25 年 12 月 13 日(金)～15 日(日)

場所:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階 マルチメディアセミナー室(306)

「20 世紀初頭におけるコプト・キリスト教徒の民族意識形成ーコプト語復興運動を事例に」

三代川 寛子(人間文化研究機構地域研究推進センター 研究員)

「中東☆イスラーム研究セミナー」の存在は、ポスターやメーリング・リストなどを通して以前から知っていましたが、私の貧弱な研究は 1 時間の発表と 1 時間の質疑応答という濃密なやり取りに耐えうるものではないと思い、敬遠していました。しかし、そろそろ仕事の任期の終わりが見えてきたこともあり、博論執筆への焦りが高まってきたこと、そして普段あまり接する機会のない先生方に自分の研究発表を聞いていただき、長時間に亘ってコメントをいただける機会には他にあまりないことから、今回このセミナーに応募させていただきました。

今回私は、3 日間のセミナーで最初の発表者であったため、戦々恐々として臨みましたが、研究セミナーおよびその後の懇親会はとても打ち解けた雰囲気の中で行われました。また、AA 研の先生方による指摘は鋭いものばかりでしたが、自分の研究の問題点を整理する上で非常に有益かつ建設的なものでした。加えて、今回のセミナーでは、先生方のアドバイスの仕方、そして他の発表者の方々のプレゼンテーションの仕方にも学ぶところが多くありました。

また、恒例の「私の博士論文」では、参加者の誰もが不安に思っているであろう博士論文執筆までの道のりを詳しく話していただけたので、博論執筆に関してより具体的なイメージを描くことができました。それぞれ置かれた立場や環境は異なるものの、博士論文執筆という共通の目標を持った若手研究者が集まる機会はそれほど多くないため、非常に良い刺激を受けることができたと思います。当初は博論執筆への焦りばかりが頭にありましたが、受講後は少し落ち着いて具体的に執筆計画を立てることができるようになったと思います。

全体を通して言えば、非常に密度が濃いセミナーであり、AA 研の先生方や他の受講者の方々に自分の研究を精査していただくことにより、多くの点に気づかされ、また、勇気づけられる機会でもあると思います。もし受講を検討中だけでも気後れしているという方がいらっしゃるなら、受講を強くお勧めします。また、AA 研の担当者の方々には、今後とも是非このセミナーを継続していただきたいと思います。

最後になりますが、私の稚拙な発表に真摯かつ丁寧にコメントをくださった先生方、そして運営を担当された事務局の方々に、心より御礼申し上げます。